

自己評価表（2022年度）

1. 日本語学科教育目標

1. 教育活動

(1) カリキュラムについて

学習レベルに合わせた4技能（読む・聞く・書く・話す）習得の為のカリキュラムの構築ならびに介護福祉学科進学を希望する学生を対象とした介護の日本語習得に向けたカリキュラムの構築。

(2) 日本語能力試験について

次年度4月期生までに入学した在校生全員の日本語能力試験受験率100%を目指す。また10月期以降の入学者に関しては学内での模擬試験を実施する。共に合格率100%を目標とし、そのための授業内での試験対策の充実を図る。また、その他の日本語力の定着を図る検定試験の受験を促す。

(3) 学生指導について

日本での留学生活に馴染めるように生活指導に力を入れる。また資格外活動（アルバイト）の管理を徹底する。さらに学習指導、進路指導にも力を入れ、修了予定者が希望する進路に進めるように指導する。

(4) 教職員の資質向上について

日本語教育関係及び入国管理等の勉強会・研修会へ積極的に参加し、教職員それぞれが教授法や学生指導等の向上を目指すと共に、よりよい教育並びに学科運営を目指し、介護福祉学科との相互協力による更なる資質向上を目指す。

2. 財務体質の安定化

(1) 入学生数の確保について

入学生数の確保の為に、海外エージェントの開拓強化。現地での留学フェアへの参加、エージェント候補先への訪問等し周知広報を行う。

(2) 経費支弁者となる施設の確保について

介護職員として留学生の活用を検討している施設や法人に対しての説明会の開催。個別での説明を行い、支弁施設の獲得の強化を行う。

(3) 正規コース以外の受入

日本定住者や、観光等で滞在する外国人、地域行政等から、短期留学やプライベートレッスン等日本語学習の希望があった場合はニーズに合わせて対応できる体制の構築を進める。

(4) ホームページ、SNSの発信

広く周知広報を行うためにホームページ、SNS等での発信をより一層強化する。

3. 組織構造

(1) 業務分掌について

業務効率化へと繋げるための業務分掌の見直しを図る。また担当業務への理解を深め、責任を持って実行できる体制を整える。また不測の事態に備えて学科内の連携を強化し、迅速に対応できる体制を整える。

(2) 教職員間の情報の共有

非常講師を含む教職員の情報共有による学生指導の強化、協働作業の効率化を図る。

(3) 介護福祉学科との情報共有及び連携について

日本語学科、介護福祉学科双方での留学生支援体制、留学生への学習指導體制を目指す。また介護の日本語カリキュラム構築において連携し協働していく。

(4) 関係機関との連携について

入国管理局をはじめとする関係省庁及び団体、県内外の日本語教育機関等との連携、情報共有を行い学科運営の参考にすると同時に協力体制の構築強化を図る。

(5) 人事評価について

教職員は、遅延なく個別に自己申告評価を年2回法人本部に提出する。

2. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目的、人材育成

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1
① 建学の精神、教育理念・目的・育成人材像は定められているか	4
② 学校における特色は適正か	4
③ 建学の精神、教育理念・目的・育成人材像が生徒・保護者等に周知されているか	3
④ 学科の教育目標、育成人材像は、学科に対応する業界のニーズに適合しているか	4

① 課題

留学エージェントに対する建学精神、教育理念等の共有強化。

② 今後の改善方策

留学生を紹介する海外留学エージェントに対し、再度、本校ならびに本学科の理念や教育目標等の説明を行い、理解を深めてもらい、それに適合する学生の紹介、広報活動に繋げる。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1
① 事業計画及び目的に沿った運営方針が策定されているか	3
② 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4
③ 人事、給与に関する制度は整備されているか	4
④ 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	3
⑤ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
⑥ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
⑦ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

よりよい学科運営に向けた内部連携の強化。

② 今後の改善方策

今年度より私費留学生の受入れを開始したことにより、業務量や内容等に変更が生じ、事務及び教務での連携がうまくいかなかった。内部の報連相を更に徹底し、不測な事態に備えた体制の強化を行う。また、出入国管理局を始めとする関係各所との情報共有、連携を更に深め、学科運営に活かしていきたい。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
② 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
③ 教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
④ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
⑤ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
⑥ 成績不良者への対処は適切か	4
⑦ 資格取得の指導体制はあるのか	4
⑧ 資格取得できなかった者に対する対応は適切か	4
⑨ 人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
⑩ 関連分野における優れた教員の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
⑪ 先端的な知識・技能、情報等を修得するための研修への取組が行われているか	4
⑫ 教職員の指導力育成など資質向上の取組が行われているか	4
⑬ 各教員間及び各部門間の連携はスムーズに行われているか	3

① 課題

優秀な教員の確保及び教務業務業務の見直し。また、事務との連携強化。

② 今後の改善方策

学科運営の基準となる教員数は足りているものの、非常勤講師の実働できる時間数が限られており、専任教員への負担が大きくなっている。引き続き、優秀な講師の確保のための募集を行っていく。また、生活指導のサポートを充実されるためにも事務との連携を図りながら教育活動を行っていききたい。

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1
① 進学率の向上が図られているか	—
② 資格取得率の向上が図られているか	—
③ 退学率の低減が図られているのか	4
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4

① 課題

日本語能力試験の受験率、合格率向上に向けた取組み

② 今後の改善方策

現在校生は10月入学ということもあり、日本語能力試験に関しては未受験である。今年度は授業の中でレベルに合わせて模擬試験を行い、合格率は8割弱であった。次年度の試験に全員が合格できるように指導を強化していく。また、試験の受験は任意であるため、試験の意義や進路にも有利なことも伝えながら全員が受験するように促していく。

(5) 学生支援

評 価 項 目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
① 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4
② 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4
③ 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	4
④ 常に最新の学生情報を把握しているか	4
⑤ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
⑥ 学生相談に関する体制は整備されているか	4
⑦ 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
⑧ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
⑨ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
⑩ 学生の生活環境への支援は行われているか	4
⑪ 保護者と適切に連携しているか	3
⑫ 卒業生への支援体制はあるか	4

① 課題

資格外活動（アルバイト）の支援及び生活面でのサポート強化

② 今後の改善方策

留学生が法令遵守してアルバイトができるように、勤務先との連携を密に行い資格外活動の管理徹底を引き続き行っていく。また、学納金の未払いが発生しないように各々の事情を把握し分納払い等の指導を行っていく。また学生面談等を引き続き定期的の実施し、問題の早期発見、解決できるようなサポート体制を強化する。

(6) 教育環境

評 価 項 目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
② 機器・備品は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
③ 図書室の設備等は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
④ 防災に対する体制は整備されているか	4

① 課題

ICT教材の活用方法。

② 今後の改善方策

図書室の日本語関係の蔵書の見直しを検討しつつ、オンライン上での教材が充実していることも踏まえ、様々な教材を紹介し、ICT教材の更なる活用の促進を行い、授業だけでなく自律学習へも繋げていく。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1
① 希望者に対する情報提供等の取組が行われているか	3
② 学生募集活動は、適正に行われているか	3
③ 学生募集活動において、資格取得、就職状況の情報は正確に伝えられているか	4
④ 学生納付金は妥当なものとなっているか	4
⑤ 学生募集の効果と実績を検証しているか	3

① 課題

優良な留学斡旋業者の開拓による募集活動の強化。

② 今後の改善方策

今年度も新型コロナウイルスの影響により、国外での募集活動が計画通り実施できなかった。海外の留学斡旋業者からの問い合わせは増えたものの応募してくる学生の質は様々である。優良な留学斡旋業者を見極めながら、優秀な学生確保に努めていきたい。

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
③ 財務について会計監査が適切に行われているか	4
④ 財務情報公開の体制準備はできているか	4

① 課題

予算・収支計画の見直し及び学納金の未納者への対応方法。

② 今後の改善方策

新型コロナウイルスの影響により、学生募集が不明慮な部分が多く、予算と収支で大幅に差異が出ている現状にある。次年度以降はある程度目途が立ったことを踏まえて、予算及び収支計画をしっかりと執行できるように進める。また、費用対効果を意識し、経費削減に繋げるように努める。学生各々の事情により学納金の納付が遅延気味であるが、学生とも面談しながら遅延や滞納がないようにしっかり指導していく。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
① 法令、日本語教育機関告示基準の遵守と適正な運営がなされているか	4
② 法令、条例による報告、点検、検査が適切に実施されているか	4
③ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
④ 自己評価の実施と問題点改善に努めているか	4
⑤ 自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

法令等の理解を深め、遵守の徹底。また自己評価の結果を踏まえた問題点等の改善を行う。

③ 今後の改善方策

法務省日本語教育機関告示基準をはじめとする法令、条例等は、継続して遵守していく。入国管理局の定期検査、報告等にも迅速に対応できるように整えておく。また、自己評価等の実施による問題点は、計画的に改善できるように取り組んでいく。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3

① 課題

学生の地域活動等の参加方法の模索。

② 今後の改善方策

新型コロナウイルスの影響により、感染予防の観点からも学科主体での社会・地域貢献活動の実施に至っていない。次年度以降は学生ボランティア、並びに社会・地域貢献活動に関わっていけるように手段方法を検討していく。